

官報

號外 昭和十年三月二十五日

○第六十七回 衆議院議事速記録第三十一號

昭和十年三月二十四日(日曜日)

午前十時四十九分開議

第十 公證人法中改正法律案(一松定
吉君外八名提出)

第十一 公證人法中改正法律案(野田
文一郎君提出)

第十二 昭和八年法律第五十三號辯護
士法中改正法律案(宮澤清作君外四
名提出)

第十三 農業統制法中改正法律案(政府
提出)

第十四 粮共同貯藏助成法案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十五 米穀自治管理法案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十六 土地法中改正法律案(宮澤清作君外四
名提出)

第十七 財政調整法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十八 勞働者災害扶助法中改正法律案
(政府提出、貴族院送付)

第十九 工場法中改正法律案(政府提出、
貴族院送付)

第二十 鑄業法中改正法律案(政府提出、
貴族院送付)

第二十一 植物保護法中改正法律案(山下谷
次君提出)

第二十二 民事訴訟法中改正法律案(牧野
良三君外九名提出)

第二十三 第一讀會ノ續(委員長報告)

官報號外 昭和十年三月二十五日 衆議院議事速記録第三十一號 議長ノ報告

米穀自治管理法案外二件 第一讀會ノ續

ヲ受領セリ

市町村立尋常小學校費臨時國庫補助法中
改正法律案(政府提出)

公立學校職員年功加俸國庫補助法中改正
法律案(政府提出)

裁判所構成法中改正法律案(政府提出)
裁判所ノ廢止及設立ニ關スル法律案(政
府提出)

大正二年法律第九號中改正法律案(政府
提出)

辯護士法中改正法律案(政府提出)

公證人法中改正法律案(政府提出)

執達吏手數料規則中改正法律案(政府提
出)

司法代書人法中改正法律案(政府提出)

民事訴訟法中改正法律案(政府提出)

昭和十年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル
爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

昭和七年法律第一號中改正法律案(政府
提出)

昭和十年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル
爲公債追加發行ニ關スル法律案(政府提
出)

刑事訴訟法中改正法律案(本院提出)

一昨二十三日兩院協議委員議長及副議長互
選ノ結果左ノ如シ

臨時利得稅法案兩院協議委員

昭和十年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル
爲公債追加發行ニ關スル質問主意書左ノ
如シ

度量衡問題ニ關スル質問主意書

華族制度改革ニ關スル質問主意書

華族制度改正法律案(委員長報告)

貴族院送付

第一讀會ノ續(委員長報告)

第八 藥劑師法中改正法律案(山下谷
次君提出)

第九 民事訴訟法中改正法律案(牧野
良三君外九名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

地方財政調整法案(富田幸次郎君外二十
名提出)外一件委員

理事 田村 實君(理事上塚司君去
職) 二十二日委員辭任ニ付其ノ補
闕

一昨二十三日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ
如シ

北洋漁業取締法案(政府提出、貴族院送
付)委員

辭任佐々木平次郎君 補闕西村 茂生君

度量衡法中改正法律案(東武君外三名提
出)外二件委員

辭任増田 義一君 補闕眞鍋 儀十君

米穀自治管理法案(政府提出)外二件委員

辭任野中 徹也君 補闕深水 清君

辭任由谷 義治君 補闕風見 章君

辭任前田 熊谷 直太君 補闕眞鍋 儀十君

○議長(濱田國松君) 是ヨリ會議ヲ閉キマ
ス、日程第一、第二、第三ハ同一委員ニ付
託シタル議案アリマスカラ、一括議題ト
ナスニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」と呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナント認メマ
ス、仍テ日程第一、米穀自治管理法案、日
程第二、米穀統制法中改正法律案、日程第
三、糧共同貯藏助成法案、以上三案ヲ一括
シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報
告ヲ求メマス——委員長東武君

第一 米穀自治管理法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第二 米穀統制法中改正法律案(政府
提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 粮共同貯藏助成法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第四 貨幣政策(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第五 貨幣政策(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

明治二千五百三月二十一日
第三種郵便物認可

報告書

一米穀自治管理法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノ

ト議決致候此段及報告候也

昭和十年三月二十三日

委員長 東 武

衆議院議長濱田國松殿

(別紙)

(小字及ハ委員會修正)

米穀自治管理法案中左ノ通修正ス

第四條 米穀統制組合ハ其ノ目的ヲ達ス

ニ限り之ヲ行フモノトス

ル爲左ノ事業ヲ行フ

一 第四十三條(第五十七條第一項ニ

於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依

リ組合ニ於テ統制スペキ米穀ノ數量

ヲ組員ニ對シ割當ツルコト

二 組合ニ於テ統制スペキ米穀ヲ貯藏

ニ付組員ニ資金ノ融通又ハ其ノ幹

旋ヲ爲スコト

三 前號ノ規定ニ依リ貯藏シタル米穀

ニ付組員ニ資金ノ融通又ハ其ノ幹

二 第四十九條、第五十條(第五十七

條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)

又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ米穀ノ

賣渡ヲ爲スコト

五 勅令ノ定ムル所ニ依リ貯藏米穀ニ對シ

倉荷證券ヲ發行スルコト

五六 第二號ノ規定ニ依リ貯藏シタル米

穀ニシテ貯藏ヲ解除シタルモノヲ委

託ヲ受ケ販賣又ハ保管シ其ノ他米穀

ノ自治管理ニ附帶シ必要ナル行爲ヲ

爲スコト

米穀ヲ取扱フ販賣組合(以下米穀販賣組合

ト稱ス)ノ存スル市町村ニ於テ特別ノ事情

アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ニ規

定スル米穀統制組合ノ事業ハ行政官廳ノ許

可ヲ受ケ米穀販賣組合ニ於テ之ヲ行フコトヲ

ヲ得

第十一條 米穀統制組合成立シタルトキ

ハ其ノ地區内ノ組合員タル資格ヲ有ス

ル者ハ總テ其ノ組合員トス

第二條ニ該當スル者ニシテ第七條ニ依リ組

合員タル資格ヲ有セザルモノハ定款ノ定ム

ル所ニ從ヒ米穀統制組合ニ加入スルコトヲ

得

第十四條 左ニ掲タル事項ハ總代會ノ議

決ヲ經ベシ

一 収支豫算

二 經費ノ分賦收入方法

三 事業報告及收支決算

四 借入金

五 定款ノ變更

六 第三十七條ニ於テ準用スル第八條

ノ同意

七 第四十三條(第五十七條第二項ニ

於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ割當

前項第一號、第二號、第四號及第五號

ニ掲タル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可

ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十八條 米穀ヲ取扱フ販賣組合(以

下米穀販賣組合ト稱ス)ノ存スル市町

村ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀

統制組合ノ事業ハ行政官廳ノ許可ヲ受

ケ米穀販賣組合ニ於テ之ヲ行フコトヲ

得

第三十一條 米穀統制組合及其ノ事業ヲ

行フ團體ハ團體相互ノ聯絡ヲ圖リ米穀

ノ自治管理ヲ行フ目的ヲ以テ地方米穀

統制組合聯合會ヲ設立スルコトヲ

得

米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ米穀

販賣組合ナキ市町村ニ於テハ勅令ノ定

ムル所ニ依リ農會ハ行政官廳ノ許可ヲ

受ケ米穀統制組合ノ事業ヲ行フコトヲ

得

朝鮮及臺灣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ

依リ米穀ヲ取扱フ產業組合又ハ農會ハ

行政官廳ノ許可ヲ受ケ米穀統制組合ノ

事業ヲ行フコトヲ得

第二十九條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ

團體ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ團體員ニ

非ズシテ其ノ區域内ニ於テ米穀統制組

合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ

團體員ニ準ジ第四條ニ掲タル事業ヲ

行フコトヲ得

第三十條 第四條ニ掲タル事業ヲ

前項ノ場合ニ於テハ第四條ニ掲タル

事業ヲ行フ團體ハ前項ニ規定スル者ヨ

リ團體員ノ例ニ準ジ使用料及手數料ヲ

徴収スルコトヲ得

第三十一條 米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團

體ガ第四十三條ノ規定(第五十七條第

二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依

ル割當ヲ爲ス場合ニ於テハ總會又ハ總

代會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

米穀統制組合ノ事業ヲ行フ場合ニ於ケ

ル前項ノ團體ノ監督及總會又ハ總代會

ニ關シテハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコ

トヲ得

第三十二條 地方米穀統制組合聯合會及

中央米穀統制組合聯合會ノ議員ハ命令

ノ定ムル所ニ依リ地方米穀統制組合聯

合會(臺灣ニ於テハ寧ノ區域内ノ米穀

統制組合ヲ含ム)又ハ其ノ事業ヲ行フ

團體ノ代表者ヲ以テ之ニ充ツ

廳ノ區域内ノ米穀統制組合ヲ含ム)及其

ノ事業ヲ行フ團體ハ團體相互ノ聯絡ヲ

圖リ米穀ノ自治管理ヲ行フ目的ヲ以テ

中央米穀統制組合聯合會ヲ設立スルコ

トヲ得

第三十三條 地方米穀統制組合聯合會ノ

地區ハ内地ニ在リテハ道府縣、朝鮮ニ

在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州、中央

米穀統制組合聯合會ノ也區ハ各內也、

朝鮮又ハ臺灣ノ區域ニ依ル

第三十四條 地方米穀統制組合聯合會及

中央米穀統制組合聯合會ニ總會ヲ置ク

總會ハ會長、副會長及議員ヲ以テ之ヲ

組織ス

第三十五條 地方米穀統制組合聯合會ノ

議員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ米穀統制

組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ノ代表者

ヲ以テ之ニ充ツ

第三十六條 地方米穀統制組合聯合會及

中央米穀統制組合聯合會ニ左ノ役員ヲ

置ク

第三十七條 會長一人又ハ二人

副會長一人又ハ二人

評議員數人

役員ハ議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ會長

及副會長ハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任ス

ルコトヲ妨ゲズ

前項但書ノ規定ニ依ル會長及副會長ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十七條 第四條、第六條、第八條乃至第十一條。第一項、第十四條乃至第十六條、第二十二條第一項及第十九條第五項乃至第七項、第十九條乃至第二十一條、第二十二條第一項及第二十三條乃至第二十六條ノ規定竝

第二十七條中解散ニ關スル規定ハ地方米穀統制組合聯合會及中央米穀統制組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第三十八條 勅令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ道府縣ラ區域トスル米穀ヲ取扱フ販賣組合聯合會（以下道府縣米穀販賣組合聯合會ト稱ス）ハ地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ、内地ヲ區域トスル米穀ヲ取扱フ販賣組合聯合會（以下全國米穀販賣組合聯合會ト稱ス）ハ内地トスル中央米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フコトヲ得

第三十九條 地方米穀統制組合聯合會ノ事業ヲ行フ道府縣米穀販賣組合聯合會ハ其ノ地區内ニ於ケル米穀統制組合及所屬組合ニ非ズシテ米穀統制組合ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ所屬組合ニ準ジ第

三十七條ニ於テ準用スル第四條。第一項、第十九條乃至第二十六條ノ規定ハ中央米穀統制組合聯合會ニ對

ノ事業ヲ行フコトヲ得

第三十九條 第四條。第一項、第十九條乃至第二十六條ノ規定ハ中央米穀統制組合聯合會ニ對

ノ事業ヲ行フコトヲ得

第五十一条 第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル割當ヲ爲ス場合ニ於

テハ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第五十二条 第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ之ヲ準用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

第五十三条 政府ハ各内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル中央米穀統制組合聯合會又ハ

其ノ事業ヲ行フ全國米穀販賣組合聯合會ニ對シ第四十一條ノ規定ニ依リ定マリタル數量ノ米穀ヲ割當テ其ノ米穀ニ付給制ヲ命ズ

政府ハ第四十一条ノ規定ニ依リ内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行フ國體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體前條ノ規定ニ依

ル割當ヲ爲サザル場合ニ之ヲ準用ス

第五十四条 中央米穀統制組合聯合會若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體前條ノ規定ニ依リ統制ヲ命ゼラレタ

（第五十七条 第一項ニ於テ準用スル場合ニ於テ統制セシムベキ米穀合ヲ含ム）ニ依ル割當ヲ爲ス場合ニ於テハ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第五十五条 第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ之ヲ準用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

第五十六条 政府ハ各内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル中央米穀統制組合聯合會又ハ

其ノ事業ヲ行フ全國米穀販賣組合聯合會ニ對シ第四十一條ノ規定ニ依リ定マリタル數量ノ米穀ヲ割當テ其ノ米穀ニ付給制ヲ命ズ

政府ハ第四十一条ノ規定ニ依リ内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル米穀統制組合聯合會又ハ其ノ事業ヲ行フ國體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體前條ノ規定ニ依リ統制ヲ命ゼラレタ

ル割當ヲ爲サザル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七条 政府ハ米穀統制組合若ハ其

ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ國體が前條ノ規定ニ依リ貯藏スベキ米穀中貯藏能力其ノ他ノ事情ニ依リ貯藏困難ナリト認ム

モノニ付當該團體ヨリ賣渡ノ申込アリタル場合ニ於テハ買入ヲ爲ス

前項ノ買入價格ハ内地米ニ在リテハ米穀統制法第二條ノ最低價格、朝鮮米又

ハ臺灣米ニ在リテハ勅令ノ定ムル一定價格以内ニ於テ時價ニ準據シテ定メタル價格トス

第五十八条 政府ハ米穀統制組合若ハ其

ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ國體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體前條ノ規定ニ依リ統制ヲ命ゼラレタ

ル割當ヲ爲サザル場合ニ之ヲ準用ス

第五十九条 内地ニ於ケル米穀統制組合、地方米穀統制組合聯合會、中央米穀統制組合聯合會、米穀販賣組合又ハ

第五十条 中央米穀統制組合聯合會又ハ之ヲ准用ス

米穀統制組合又ハ其ノ事業ヲ行フ團體ハ其ノ割當テラレタル數量ノ團體員及

朝鮮及臺灣ニ於テ統制セシムベキ米穀ノ數量ノ割當ニ付テハ前三項ノ規定ニ

關シ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第五十一条 第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ之ヲ準用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

第五十二条 第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ之ヲ準用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

第五十三条 第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ之ヲ準用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

第五十四条 第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ之ヲ準用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

第五十五条 第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ之ヲ準用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

第五十六条 第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ之ヲ準用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

ノ米穀ヲ内地、朝鮮及臺灣ニ於テ統制セシムルコトヲ得

第五十七条 前條ノ場合ニ於テハ政府ハ各内地、朝鮮及臺灣ニ於テ統制組合聯合會若ハ其ノ事業ヲ行フ團體及中央米穀商統制組合聯合會又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體ニ對シ前條ノ一定數量ヲ割當テ其ノ米穀ニ付統制ヲ命ズ

第五十八条 政府ハ米穀統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ國體又ハ米穀商統制組合若ハ其ノ事業ヲ行フ團體前條ノ規定ニ依リ貯藏スベキ米穀中貯藏能力其ノ他ノ事情ニ依リ貯藏困難ナリト認ムモノニ付當該團體ヨリ賣渡ノ申込アリタル場合ニ於テハ買入ヲ爲ス

前項ノ買入價格ハ内地米ニ在リテハ米穀統制法第二條ノ最低價格、朝鮮米又

ハ臺灣米ニ在リテハ勅令ノ定ムル一定價格以内ニ於テ時價ニ準據シテ定メタル價格トス

第五十九条 内地ニ於ケル米穀統制組合、地方米穀統制組合聯合會、中央米穀統制組合聯合會、米穀販賣組合又ハ

第五十条 中央米穀統制組合聯合會又ハ之ヲ准用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

第五十二条 第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ之ヲ準用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

第五十三条 第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ之ヲ準用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

第五十四条 第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ之ヲ準用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

第五十五条 第二項ノ規定ハ前項ノ團體ニ之ヲ準用ス

前條ニ規定スル米穀統制組合及其ノ事業ヲ行フ團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ代表者ヲ第一項ノ總會又ハ總代會ニ出席セシメ表決權ヲ行使セシムルコトヲ得

ナラレマシテ、政府ニ於キマシテモ最モ誠意ヲ披瀝シ、懇切丁寧ニ應答ヲ重ネラレタノデアリマス、政府ノ説明ノ要旨ヲ大略申上ゲマス、政府ハ昭和八年十一月ヨリ米穀統制法ヲ施行致シマシタ、統制法ハ米穀ノ最低最高價格ヲ公定シ、竝ニ季節的出廻調節ヲ根幹トシテ居リマスルガ、米穀ノ統制ヲ圖リマスニヘ、此統制法ニヘ幾多ノ缺陷ガアリ、其缺陷ヲ補正スルノ意味ヲ以チマンテ、本院ノ協賛ヲ經マシテ、昨年五月臨時米穀移入調節法ヲ施行致シタノデアリマス、此臨時米穀移入調節法ハ、其名ノ如ク臨時立法デアリマシタガ爲ニ、豫備金性質ノ金ヲ三億万圓充當致シマシテ、外地米ノ統制補強ニ努メルト云フ趣意デアリマス、第六十五議會ニ於キマシテ、該法案ハ本院ノ審議ヲ俟チマシテ、甚ダ不徹アリマシタ、サウシテ此臨時米穀移入調節法ハ暫定的法律トシテ、此議會ヲ通過致シテ施行サレテ居ツタノデアリマスルガ、此暫定的法律ノ結果ト致シマシテ本院ハ、臨時議會ヲ召集シテ速ニ内地外地ノ一貫シタル米穀政策ヲ定ムベシト云フ、全會一致ノ決議ヲ以テ、前齋藤内閣ニ要求シタノ有ツテ居ルノデアリマス、其後齋藤内閣方倒レマシテ、岡田内閣ガ組閣サレ、此齋藤内閣ノ趣意ヲ體シテ、政府ハ昨年九月以来、米穀對策調査會ヲ設置致シマシテ、該調査會ガ數箇月ニ亘ツテ慎重審議ノ結果、其答申ニ基キマシテ、以上ノ三法案ヲ提出シタノデアル、斯様ナ説明デアリマス

又今回提案サレタ米穀自治管理法案ノ要點ハ何デアルカト申シマスト、第一ヘ、内通ジテ一貫シタル公平ナル統制方策ヲ樹立スルト云フノガ其根幹デアリマス、此法案ノ最モ重點トモ見ルベキモノハ、過剩米穀ヲ統制スル意味デアリマシテ、即チ内地外地ヲ達スルト云フノガ其根幹デアリマス、此法案ノ最モ重點トモ見ルベキモノハ、過剩米穀ヲ統制スル意味デアリマシテ、其統制ノ目的ヲ達スルト云フノガ其根幹デアリマス、即チ臺灣ノ比率ヲ定メタコトデアリマス、即チ内地ハ百分ノ三十五、朝鮮ハ百分ノ四十三、臺灣ハ百分ノ二十二ト、此比率ヲ定メマシテ、本法ノ目的ヲ達スルト云フ趣意ニ依ツテ成ツテ居ルノデアリマス、此官民一致、内外地協力ノ力ニ依ツテ、此米穀對策ヲ樹ツルト云フ意味ト同時ニ、國庫ノ負擔ノ輕減ヲスルト云フコトヲ、強ク説明ヲサレテ居ルノデアリマス、米穀統制法ハ、米穀ノ過剩生産ノ時ハ、米穀ガ一時ニ殺到シテ、最低價格ヲ下廻ラントスル場合ハ、政府ハ無限ニ買上ノ義務ヲ有スルノデアリマス、此場合ニ處スルノ途ハ、官民一致ノ協力ニ依リ、マシテ、生産者ハ米價ノ低落ヲ防止スルト共ニ、自己ノ生産物ヲ有利ニ販賣スルノ方法ト致シマシテ、本法ニ依ツテ過剩米ノ貯藏ヲ爲シ、政府ハ之ニ對シテ助成金ヲ交付スルト云フコトニナツテ居ルノデアリマスルガ、一方ニハ生産者モ有利トナリ、國家モガ、一方ニハ生産者モ有利トナリ、國家モ強ク現レタル質問應答ノ二三ヲ御紹介致シマス、細カイコトハ速記錄ニ於テ御覽ヲ願フコトニ致シマス、此本法案ニ依リマシテモ、内外地ノ比率ト過剩米穀ノ統制ダケニ於テ、果シテ内外地ノ統制ヲ全ウスルコトガ出來ルノデアルカ、此點ハ假令比率ヲ定メタト致シマシテモ、過剩生産ノアル

ト致シ、第二ハ、現行統制法ハ、一旦政府が買上ヲシテ所有米ハ、最高價格ニ非ザレテ、政府ト民間ト相協力シテ、其統制ノ目的ヲ達スルト云フノガ其根幹デアリマス、此法案ノ最モ重點トモ見ルベキモノハ、過剩米穀ヲ統制スル意味デアリマシテ、即チ内地外地ノ比率ヲ定メタコトデアリマス、即チ臺灣ノ比率ヲ定メタコトデアリマス、此比率ヲ定メマシテ、本法ノ目的ヲ達スルト云フ趣意ニ依ツテ成ツテ居ルノデアリマス、此官民一致、内外地協力ノ力ニ依ツテ、此米穀對策ヲ樹ツルノデアリマス、米穀ノ代用食料ノ小麥及小麦粉ニ付キ、輸入ノ制限及輸入税ノ増減、免除ヲ爲スト云フ改正デアルノデアリマス

又第三案ノ概共同貯藏助成案ハ、本院ニ於キマシテモ屢々論セラレマシタ米穀對策ノ

一方法ト致シマシテ、自助ト共同共濟ノ意味ヲ以チマシテ、糧貯藏ノ方法ニ依ツテ產業組合、農會等ガ、米ノ出廻數量ノ調節ヲ目

的ト致シマシテ、政府ハ此貯藏團體ニ對シマシテ金利、保管料ニ相當スル所ノ、政府

所有ノ米穀ヲ助成米トシテ交付スルト云フ建前ニナツテ居ル、即チ共同組織ニ依リマシ

テ、共濟共助ノ目的ヲ以テ、彼ノ鄉藏制度ナド、云フ古イ歴史モアル、此制度ニ依リマシテ、此方法ヲ樹立致シタイト云フ趣意ニナツテ居ルノデアリマス、委員會ニ於テ最

マスルガ、此法案ニ依リマシテ、果シテ國庫ノ負擔ガ輕減スルカドウデアルカト云フコトハ、多大ノ疑問ガアル、此質問應答モ有

力ニ重ネラレタノデアリマス、成程本案立法ノ趣意カラ申シマスレバ、過剩米ノ豊富

ノ時ニ、最低價格ニ於キマシテ政府ニ買上ヲ要求スル場合ハ、政府ハ之ヲ拒ムノ權利

ハナイ、且ツ是ガ要求ニ對シテ買上義務ヲ有スルノデアリマスガ、本法ニ於キマシテ、假ニ施行サル、トシテモ、政府ガ大量買上ノ義務ハ緩和サル、ト同時ニ、生産者團體ニ於テ貯藏ヲ命ゼラル、ノデアリマスルカ

ラシテ、政府ノ買上ヲ貯藏ノ義務ハ、生産

者側ニ負擔ヲスルコトニナリハシナイカ、即チ言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、國家ノ負擔ハ或ル程度ニ輕減スルト致シマシテモ、此義務ヲ生産者ニ轉嫁致シマシテ、生産者が其損失ヲ負擔スルコトニナルノデハナイカ、即チ一時ノ政府ノ肩代リヲスルト云フ意味ニ過ギナイノデハナイカ、又第二點ハ、民間ノ貯藏米モ年々豊作デ過剩米ガ多クナレバ、米價ガ下落シ最低價格ヲ出廻ラントスル場合ニハ、政府ハ買上ゲナケレバナラヌノデアル、此點カラ言ヘバ、窮極スル所ハ政府ノ負擔ニ歸著スルノデアル、此兩方ノ観察シマスレバ、政府ノ主張スル如キ國庫ノ負擔ヲ輕減スルト云フコトニハナラナイノデハナイカト云フ論ガ、盛ニ鬪ハセラタノデアリマス、併ナガラ政府ガ數字ヲ以テ説明スル所ナドニ依リマスレバ、過剩米五百万石ヲ統制スルモノト假定致シマスレバ、三箇年間ニハ金利、保管料、古米ノ格下額、之ニ依リマシテ政府ガ直接ニ統制法ニ依ル場合ト、此自治管理ノ場合トニ依リマスレバ、即チ五百万石ノ中ノ三割百五十万石ヲ政府ガ買シテ、殘餘ノ三百五十万石ヲ假ニ貯藏スルモノト致シマシタ場合ニハ、國庫ノ負擔ハ二千八百五十六万圓ノ差益ガアル、斯様ナ意味ニ於キマシテ國庫ノ負擔ハ減少スル、即チ米ノ統制ヲ命ジタル場合ニ、金利、倉敷、保管料ヲ拂シテモ、矢張政府ハ斯様ナ經費ノ負擔ノ差額ガ生ズルト云フ説明ガアリマシタ、併シ此議論ハ一定スレバ、常識的、達觀的ニ於テモ、相當ノ國庫ノ負擔ノ輕減スルコトハ當然デアル

ト云フコトヲ、屢々政府ノ方ハ繰返シテ申シテ居リマス。又本法ハ高米價政策ノ現レデハナイカト云フコトガ、中々有力ナ議論ガアッタノデアリマス、農民ガ共同組織ヲシテ、サウシテ或ル過剩米ノ統制ヲスルガ、此共同組織ノ力ハ、遂ニ自由米ニモ及ビ、販賣米ニモ及ブト云フコトニナレバ、是ハ結局消費者大衆ノ米價ヲ高クシテ、高米價政策ヲ產生ス結果ニハナラナイカト云フ議論ガアリマシタガ、是ハ此立法ニ於テハ、十分其點ヲ考慮致シマシテ、總て消費者ノ點ニ於テモ十分ニ考慮ヲ加へ、例ヘバ災害事變其他モ十分ニ考慮ヲ加へ、例ヘバ災害事變其他ヲ考慮致シマシテ、總て消費者ノ點ニ於テ云フヤウナ、特別ノ事情ノアッタ場合ニハ、米價ガ最高價格デナケレバ、現行法デ云フヤウナコトデ、需給ノ調節、此運用ヲ完ウセシムル利益ガアル爲ニ、消費者ニ對シテハ非常ニ有利デアル、又災害事變其他ニ於テモ、今日ノ現行法ニ於テハ、一粒ノ米モ政府ハ出スコトガ出來ナイコトニナッテ居ルガ、是等モ或ル平均價格ヲ保テバ、米價ニ非常ニ惡影響ヲ及サル場合ニハ、之ヲ賣出スコトモ出來ルト云フ緩和的ノ立法ニアリマスカラ、其場合ニ於テモ消費者ハ多大ノ利益ヲ得ルモノト信ズル、斯様ナ説明ガ加ヘラレテ居ルノデアリマス、產業組合ノ違法脫法ト云フコトニ付テ、非常ナ議論ガ鬪ハサレマシテ、殆ド委員會ヲ通ジテ後刻説明致シマス。

尙ホ此代行機關ヲ認ムルヤ否ヤト云フコトガ、本法案ノ骨子デアリマスルガ、全國一万四千餘ノ產業組合中ニハ、信用ノ缺如シテ居ルモノ、或ハ不法行爲ノアルモノ、又資金等ガ凍結シ、或ハ負債ノ爲ニ假死状態ニナツテ居ルモノ、睡眠狀態ノモノモ數多イノデアル、是等ノモノニ生産者ノ生命ト云フ、此解除ノ場合、勅令規定デ解除スルト云フコトニナレバ、米價ハ何時マデモ矢張此貯藏ノ爲ニ壓迫サレテ、生産者ハ非常

ト促スト云フコトハ、屢々委員諸君ノ中ニ於テ質問應答ガ重ネラレタノデアリマス、政府ハ今後一層力ヲ籠メマシテ、是等ノ改善ニ努力シ、又不法行爲、脱法行爲等擁護ト云ヒ、或ハ反產運動ト云ヒ、殆ド疾風ノ如ク一團トナッテ政府ニ對シ、議會ニ對シ、強力ナル運動ガ展開サレタ云フコトハ、是ハ事實デアリマス、(拍手)此自治管業組合ヲ強化スルト云フヤウナ意味ノコトハ全然考ヘテ居ラズ、又左様ナコトハ爲スペキコトデナイト云フコトニ付テ、政府理法ハ米穀商ノ商標ヲ潰滅スルトカ、或ハ産業組合ヲ強化スルト云フヤウナ意味ノコトハ全然考ヘテ居ラズ、又左様ナコトハ爲安定ニ依リマシテ需給ヲ圓滑ナラシメ、都會ノ消費者、一般大衆ノ利害ヲ深ク考慮シタモノデアリマンテ、決シテ産業組合ヲ偏重スル、或ハ強化スルト云フヤウナ意味ハアルカト云フコトノ質問ガアリ、又朝鮮會ノ消費者、一般大衆ノ利害ヲ深ク考慮シタモノデアリマンテ、決シテ産業組合ヲ偏重スル、或ハ強化スルト云フヤウナ意味ハアルカト云フコトノ質問ガアリ、又朝鮮府ハドノヤウナ政策ト方針ヲ有ツテ居ルノ姑息ナ立法ヲ致シテ、果シテ米穀政策ヲ全ウスルコトガ出來ルカ、生産制限ニ付テ政アルカト云フコトニ付テ、政府ハ此點ニ付キマシテハ、海外ノ販路ノ擴張、或ハ米ノ利用増進、新規開拓等ニ十分思ヲ致シテ盡力申デアル、又朝鮮總督府若ハ拓務大臣等ニ於キマシテハ、海内ノ活動ヲ助長スル爲ニ於テ、都市ト農村トノ合理的配給組織ノ圓滑ヲ企圖シタモノデアルト云フコトヲ、屢々聲明サレテ居ルノデアリマス、此點ニ於テハ次ニ申上ゲマスル議等ガ附ケラレテ居ルノデアリマスルガ、後刻説明致シマス。

ソレカラ本法ヲ施行シタ場合ニ於キマシテハ、糧又ハ米ノ大量貯藏ヲ爲シテ、其解除ノ場合、即チ本法ノ四十八條「政府ハ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第四十六條ノ規定ニ依リ貯藏シタル米穀ニ付其ノ貯藏ノ解除ヲ命ズルコトヲ得」ト云フ、此解除ノ場合、勅令規定デ解除スルト云フコトニナレバ、米價ハ何時マデモ矢張此貯藏ノ爲ニ壓迫サレテ、生産者ハ非常

ナ不利益ヲ蒙スノデハナカラウカ、是ハ非
常ニ生産者方面カラシテハ大切ナ問題デア
ルノデアリマスガ、勅令事項ニ依ツテ貯藏
ラスル場合ニハ、如何ナル時ニ貯藏ヲ解除
スルノデアルト云フ説明デアル、貯藏シタ
米ヲ一割ノ値上リノ時ニ解除スルト云フコ
トニナレバ、米價ノ最低最高價格ヲ統制法
ニ依ツテ決メテモ、其最低價格ハ一割ノ値上
リト云フ所ニ米價ハ何時モ膠著シテシマ
フ、ソレヨリハ動カナイ、上ラナイト云フ
コトニナッテ、統制法以上ニ生産者ノ不利益
ヲ醸スデハナカラウカト云フコトガ、有力
ニ質問應答ヲ重ネラレタノデアリマスルガ、
是ハ附帶決議其他ニモアル通り、各派ノ要
求ニ依リマシテ、大體米價ハ平均價格、即
チ中心値ト云フコトヲ標準ニシテ、運用宜
シキヲ得ルト云フ政府ノ言明ガ加ヘラレタ
譯デアリマス

業組合販賣會ニ代行スルト云フヤウナ精神ヲ、特別ノ事情アルモノニ限ルト云フヤウナ制限ヲ加ヘタコト、其外政友民政共ニ十分政府ノ所信ヲ質シマシテ、附帶決議、希望決議等ニ於テ、委員會ノ意思ハ最モ明白ニ現レテ居ル次第アリマス

以上三案ニ對シマシテ、昨二十三日委員會ノ討論ニ入りマシテ、政友會ノ代表トシテ助川啓四郎君ノ發議ニ依リマシテ、別紙諸君ノ手許ニ御配付ニナシテ居ル筈デアリマスルガ、其修正動議竝ニ希望決議ガ提出サレテ居リマス、又民政黨ヲ代表致シマシテ池田秀雄君ヨリ、本案修正ハ政民共同ノ修正ニ依リ成立ヅタモノニアリマスカラシテ、法文ノ全體ニ瓦ツテハ不備ノ點、缺陷ノ點ガ多イノデアルガ、米穀政策トシテハ一進歩デアルト云フ意味ノ理由ニ依リマシテ、政友會ノ修正動議ニ賛成ノ意見ヲ表セラレマシタ、尙ホ池田秀雄君ヨリ希望決議ガ提出サレテ居リマス、國民同盟ノ風見君ヨリハ、贊否保留ノ意見ヲ述べラレテ居リマス、採決ノ結果ト致シマシテ、助川君提案ノ修正案ハ、委員會ハ大多數ヲ以テ可決サレタノデアリマス

次ニ修正ノ各項目ヲ速記錄ニ留メル意味ニ於キマシテ、極ク簡單ニ省略シテ要領ダケヲ述べタイト考ヘマス、米穀管理法案ニ對スル修正ハ

第一、第四條第一項本文ニ「左ノ事業ヲ行フ」トアルヲ「左ノ事業ニ限リ之ヲ行フモノトス」ニ改ム

第二、第四條第一項ノ五號トシテ「勅令ノ定ムル所ニ依リ貯藏米穀ニ對シ倉荷證券ヲ發行スルコト」ヲ加ヘ、第五號ヲ

第三、第四條ノ第一項トシテ左ノ一項ヲ
加フ
米穀ヲ取扱フ販賣組合（以下米穀販賣
組合ト稱ス）ノ存スル市町村ニ於テ特
別ノ事情アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ
依リ前項ニ規定スル米穀統制組合ノ事
業ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ米穀販賣組
合ニ於テ之ヲ行フコトヲ得
第四、第十一條ニ左ノ一項ヲ加フ
第二條ニ該當スル者ニシテ第七條ニ依
リ組合員タル資格ヲ有セザルモノハ定
款ノ定ムル所ニ從ヒ米穀統制組合ニ加
入スルコトヲ得
第五、第三十一條第二項及第五十五條ヲ
削除シ關聯條文ノ削除及修正ヲ爲ス
第六、第五十九條及第六十條ヲ削除ス
修正ノ條項ハ數十條ニ亘ラズ居リマスル
ガ、此條文ノ本質的ニハ餘り大シタ相違ハ
ナシ、唯二三ノ説明ヲ致シマスレバ、第四
條ノ第一項ヲ改メタト云フコト、第四條ニ
倉荷證券ヲ發行スルコトノ統制組合ニ自由
ヲ與ヘルヨト、ソレカラ中央米穀統制會、
地方縣聯合會、町村聯合會ト云フ系統組織
ニナツテ居ルノデ、中央聯合會ハ、是ハ自治
管理會ト云フモノガ出來ルノデアルカラ、
特ニ中央ト云フ、中央ノ聯合會ヲ拘ヘル必
要ハナシ、自治管理會ガ中央機關トシテ働
ケバ宜シイト云フ意味ニ於テ、中央聯合會
ト云フモノヲ削除シテ、其關聯事項ガ數十
項ニ亘ラズノミデアリマス、其外ニ六十條ノ
平均賣或ハ五十九條等ハ、是ハ米穀統制ノ
上ニ於テ指令ヲ出ストカ、或ハ平均賣ヲ爲
スト云フヤウナ定款事項ノモノヲ、此法文
ノ條項ニ挿シシテ、國民ニ疑惑ヲ與ヘルヤウ
ナ條文ヲ設クル必要ハナイト、斯様ナ意味

此修正ヲ加ヘラレタノデアリマス、尙ホ
詳シキハ速記録ヲ御覽ヲ願ヒマス、附帶決
議ト致シマシテ政友會カラ

附帶決議

一米穀ノ生産統制方策ヲ樹立シ且米穀
ノ新規用途開拓利用増進ニ關シ適切
ナル方途ヲ講ズベシ

二速ニ米穀ノ國營検査ヲ斷行スベシ
三産業組合ノ違法及脱法行爲ノ取締ヲ
嚴ニシ官僚化ト營利化トヲ排除シ產
業組合本來ノ使命ニ於テ其ノ健全ナ
ル發達ヲ計ルベシ

四商業組合及工業組合ノ助長ト普及發
達トニ努メ中小商工業ノ經營改善ヲ
計ルト共ニ商工組合中央金庫並庶民
金融機關ヲ創設シ中小商工業者ノ爲
金融ノ利便ヲ計ルベシ

五本法ノ實施ニ際シテハ中間配給機關
ニ重大ナル影響ヲ與ヘザルヤウ特ニ
留意シ米穀統制法中改正法律案ニ對
スル附帶決議ヲ以テ要望セル調査會
ニ於テ調査スベシ

六米穀自治管理委員會ノ委員ニハ生產
者及消費者ノ代表ヲ加フルヲ要ス

又民政黨ノ附帶決議トシテ

附帶決議

一内地、朝鮮及臺灣ヲ通ジテ米穀ノ生
産統制代作ノ獎勵海外販路ノ開拓新
規利用ノ増進等ニ付キ内閣審議會ニ
付議シ適當ナル方策ヲ講ズルコト
ニ産業組合ノ指導監督ヲ徹底セシメ以
テ其ノ法規ヲ逸スル行爲ヲ止メ產業
組合本來ノ使命ニ從ヒ健全ナル發達
ヲ圖ルコト

三政府ハ商業組合及工業組合ヲ助成シ

其ノ普及發達ヲ圖リ商工中央金庫ヲ創設シ以テ中小商工業者ニ金融ノ途ヲ拓キ其ノ健全ナル發達ヲ期スルコト四產業組合ト米穀商業組合トノ協調ヲ計リ圓滿ナル發達ヲ遂ゲシム爾爲適當ナル施設ヲ講ズルコト

五米穀ニ關シ商業組合ニ産業組合ト同一ノ待遇ヲ與フルコト（例ヘバ申込保證金ノ免除、整理ノ拂下米ノ取扱等）

六米穀自治管理委員會ノ委員ニハ生産者及米穀取扱業者ノ代表ヲ加フルコト

七米穀國營検査ヲ斷行スルコト

八本法ノ運用ニ當リ中間配給機關ニ影響ヲ及ボサマル様注意スルコト

統制法ノ附帶決議ガアリマス、是ハ政府ハ昭和十年度ニ於テ調査會ヲ設置シ速ニ米穀取引所ノ改廢、取引所及同取引員ノ損失ニ關スル對策ヲ講ズベシ

〔統制法ノ改正ガアリマシタ〕ト呼フ者アリ

統制法ノ改正ハ曩ニ讀ミマシタ

〔マダ御讀ミニナラナイ〕ト呼フ者アリ

モウ一遍——米穀統制組合法中改正法律案ヲ左ノ通り改正ス

第四條ノ二「政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ」ノ次ニ「米價ガ最低價格ト最高價格トノ平均價格以上ニ在リ且」トアル二十四字ヲ削ル

是ハドウ云フ意味カト申シマスト、一寸簡單ニ申上ゲマスガ、米價ガ非常事變ノ場合ニアツク時分ニ、政府ガ米穀ヲ拂下、賣下ケル場合ニ、最低價格ト最高價格トノ平均

ス、仍テ直ニニ三案ノ第一讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス
米穀自治管理法案 第二讀會
米穀統制法中改正法律案 第二讀會
糲共同貯藏助成法案 第二讀會
○議長(濱田國松君) 討論ノ通告ガアリマス
ス、之ヲ許シマス——小山谷藏君
○小山谷藏君 極メテ簡単デアリマスカ
ラ、自席カラ發言ヲ御許ヲ願ヒマス
○護長(濱田國松君) 許可致シマス
○小山谷藏君 私共ハ本案ニ對スル贊否ヲ
委員會ニ於テ保留致シクノデアリマス、ソ
レハ政民兩黨ノ諸君ハ、所謂共同修正ト云
フコトデ、修正案ヲ提出サレタノデアリマ
ス、昨日ノ委員會ノ席上、其修正案ヲ發表
サレマシタケレドモ、突然之ヲ聽イタゞ
ケデハ、ソレヲ検討スルコトガ不可能デ
アリマシタ爲ニ、委員會ニ於テハ保留致シ
タノデアリマスルガ、此案ヲ拜見致シマシ
テ、洵ニ不満ノ點ハ多々アルノデアリマス、然
思フニ政民兩黨諸君モ、之ヲ修正スルト云
デアル、國民ノ意ヲ満スニ足リナイ原案、
之ヲ修正スルト云フノデアリマスカラ、御
骨ノ折レルコトハ尤モ千萬デアリマス、然
ラバ此修正案ニ依テ國民ノ意ヲ満スニ足
ルカ、換言スレバ、農民ノ利益ヲ保護セン
トシタ其目的ヲ達シ得ラレルカ、多大ノ不
満ト遺憾ガ尙ホ存在シテ居ルノデアリマ
ス、又法案其モノニ絕對反對ヲ唱ヘテ、熱
烈ナル反對運動ヲサレタ米穀商其他ノ諸君
ノ意ヲ満スニ足ルカト言ヘバ、是亦甚ダ不
満デアルト言ハナケレバナリマセヌ、此意

議ニ於テ、私共ノ同志ノ間ニハ、此案ヲ審
映ヲ議會ニセシメル爲ニ、反對演說ヲドウ
シテモシナケレバナラヌト云フ意見ノ持主
モ、吾々ノ同志ノ中ニハアルノデアリマス、
併ナガラ審議ヲ促進スル爲ニ、各派交渉會
ニ於テ反對演說、質問等ハ成ベク之ヲ省略
シテ、今日午前中ニ貴族院ニ送ルト云フ、
各派交渉會ノ意見ガ纏ツテ、サウ云フコトニ
ハ此機會ニ於テ一言致サナケレバナラヌト
思ヒマス、斯ノ如クシテ此法案ガ本議場ニ
提案サレテカラ約一箇月、委員會ヲ開クコ
ト十八回、而モ其間ニアッテ委員會ニ於ケル
空氣カラ察シマスルト、委員諸君ノ間ニモ
満幅ノ不滿コソアレ、是ガ無事ニ通過スル
トハ思ハレヌト想像サレルヤウナ情勢デ
アツタモノガ、一人ノ反對演說スラナクシ
テ、是ガ無事ニ衆議院ヲ通過スルト云フコ
トハ、是レ果シテ國民代表ノ府デアルト云
フコトガ出來ルデアリマセウカ、私共ハ議
會トシテハ十分ニ國民ノ意嚮ノ在ル所ヲ反
映セシムル責任ガアルト考ヘマスガ、遂ニ
各自各員ガ有ツテ居リマス意見ヲ發表スル
機會スラ與ヘズシテ、是ガ衆議院ヲ通過ス
ルト云フコトハ……〔登壇シテヤレ〕反對
カ、贊成カ」ト呼ヒ其他發言スル者多シ〕ア
ルノデアリマスカ、併ナガラ只今申上ゲタ
ルト云フコトハ……〔反對ナラ反對シ
テ見ロ〕ト呼ヒ其他發言スル者多シ〕唯之ヲ
コトハ、私共ノ同志ノ間ニ強イ反對ノ意見
カ、贊成カ」ト呼ヒ其他發言スル者多シ〕ア
ガアルト云フコトア……〔反對ナラ反對シ
ニモ強キ反對意見ガアルト云フコトヲ私ハ

候此段及報告候也

昭和十年三月二十三日

委員長 森田 政義
衆議院議長濱田國松殿

〔森田政義君登壇〕

○森田政義君

只今議題トナリマシタ勞働者災害扶助法中改正法律案、工場法中改正法律案、鑄業法中改正法律案、之ヲ一括シテ其經過結果ヲ御報告申上ゲマス

此勞働者災害扶助法案ハ、田中内閣時代ニ立案セラレマシテ、衆議院ヲ満場一致デ通過シタノデアリマスガ、貴族院ニ行ッテ審議未了ニ終リ、昭和七年ノ帝國議會ニ是ガ提出セラレマシテ、請負者ハ保險契約ヲ爲スベシト云フ譯デ、此法律ハ通りマシテ、昭和七年ノ一月カラ施行セラレテ、結果ガ非常ニ好イノデアリマスルガ、此度ノ改正

ノ趣意ト云フモノハ、今マデ責任ノ範圍ヲ免レテ居ツタ者ニ對シテ擴張ヲシタト云フ點ト、ソレカラ損害賠償扶助トノ關係、ソレカラ短期時效ノ制定、ソレカラ責任ノ一次、二次ノ關係ヲ規定シタト云フ、大體此四ツノ點デアリマスルガ、即チ鐵道、軌道等ノ運輸事業、及瓦斯、電氣等ノ工作物ノ維持保存ノ土木工事ニ付テ、請負ニ依ルモノニ付テモ本法ヲ適用スル、請負ニ依ルモノハ保險ニ付セナケレバナラナイノデアリマスルガ、斯ウ云フ小サイモノハ請負ニ依ラヌデモ、之ヲ勞働者ヲ扶助スル點ニ於テ擴張スル、斯ウ云フ改正點デス、ソレカラ責任者ノ中デ數次ノ責任者ガアル場合ニハ、勞働者ニ向テ先ヅ一番近イ者ニ催告ヲスルト云フ、催告ノ抗辯ヲ認メタ、此點ニ付テ色々委員トノ間ニ質問應答ガアッタノデアリマス、ドウモ保證責任ト連帶責任ノ

中間デハナイカ、一體如何ナル效力ガアルカト云フヤウナコトデ、政府委員トノ間ニ灾害扶助法案ノ取扱方ガ、是ガ裁判上ノ問題

質問應答ガアッタノデアリマスルガ、ソレハ殆ド今マデノ事例ノ上ニ於テ、此勞働者災害扶助法案ノ取扱方ガ、是ガ裁判上ノ問題ニナシクトガナイ、殆ド裁判外ニ於テ成績ヲ舉ゲテ居ルノデアルガ、數次ノ責任者ガアル場合ニ、甲乙丙ニ行ッタ場合ニ誰ガ拂フカ、彼方へ行ケ、此方へ行ケト言ッテ、此規定ヲ置イテ、先ヅ第一次、第二次ヲ決メタノデアルト云フ答辯デアル、私共ハ斯ウ云フコトガ裁判上常ニ争トナルト云フコトハ、餘リ宜クナイト考ヘテ居リマシタガ、幸ニ昨二十三日ヲ以降キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通

ス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

勞働者災害扶助法中改正法律案

第二讀會(確定議)

工場法中改正法律案 第二讀會(確定議)

鑄業法中改正法律案 第二讀會(確定議)

○議長(濱田國松君) 別ニ御發議モアリマセ、仍テ第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長報告通り可決確定サレマシタ(拍手)

○青不雷三郎君 此場合暫時休憩セラレントコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ暫時休憩ヲ致シマス

午前十一時五十分休憩

午後五時十二分開議

○議長(濱田國松君) 休憩前ニ引續キ會議ヲ開キマス、北鐵讓渡ニ關スル件ニ付キ外

務大臣ヨリ發言ヲ求メラレテ居リマス、之ヲ許シマス——外務大臣廣田弘毅君

〔國務大臣廣田弘毅君登壇〕

○議長(濱田弘毅君) 今回北滿鐵道讓渡交渉が成立致シマシタノデ、此機會ニ其經過ノ大體ヲ御報告申上ゲタイト思ヒマス、御承知ノ通リニ此鐵道交渉ハ、過去約二十箇月ヲ要シタノデアリマシテ、其間幾多曲折ヲ經マシタガ、幸ニ昨二十三日ヲ以マシテ、滿洲國ト「ソヴィエト」聯邦トノ間ニ讓渡ニ關スル協定及附屬ノ文書ニ調印ヲ致シマシタ、又帝國政府ト致シマシテハ、曩ニ此交渉ニ仲介斡旋ノ勞ヲ執リマシタ關係ト、滿洲國トノ特別ノ關係ニ鑑ミマシテ、此協定ノ實施ニ付キマシテ圓滿ヲ期スル為ニ、又此關係國トノ間ニ或ル約束ヲ致シタノデアリマス

此滿洲ニ於ケル東支鐵道ト云フモノハ、曩ニ帝政露西亞ノ時代ニ於キマシテハ、其極東政策ノ實施ノ根幹ト相成ツテ居ツタノデアリマシテ、當然損害賠償ノ觀念ニ含マルノデアッテ、此滿洲ニ於ケル東支鐵道ト云フモノハ、無過失ノ責任ヲ認メルノデアッテ、當然損害賠償ノ觀念ニ含マルノデアリマス、其結果ト致シマシテ、日本トノ間ニモ戰爭ガ起リマシテ、其末寛城子以南ノ鐵道ハ日本ニ讓渡スルコトニ相成ツタノデアリマス、又世界大戰ノ末期ニ相成リマシテ、露西亞ニ革命ガ起り、其間ニ一時此鐵道ハ聯合國ノ共同管理ノ下ニアッタコトモアッタノデアリマスガ、其後ニ至リマシテ「ソヴィエト」聯邦ト北京政府又ハ奉天政府トノ間ニ、此鐵道ニ關スル協定ガ新ニ結バレマシテ、其後ハ純粹ノ商業上ノ機關トシテ、之ヲ經營スルコトニナッテ參ツテ居ツタノデアリマスガ、其間ニ於キマシテモ幾多國際的ノ紛争ヲ起シタコトガアッタノデ

アリマス、昭和六年ニ満洲事件ガ起りマシテ、満洲國ノ獨立ヲ見ルコト、相成ツタノデアリマス、満洲國政府ニ於キマシテハ、同鐵道ノ名稱ヲ改メマシテ、北滿鐵道ト改稱致シマシテ、「ソヴイエト」聯邦トノ間ニ共同經營ヲ致シテ居ツタノデアリマスガ、ヤハリ此鐵道經營ニ付キマシテ、色々兩者ノ間ニ紛議ヲ醸スコトガ度々アツタノデアリマス、其結果一時ハ日滿「ソ」三國ノ間ニ、何等力不安ノ空氣ヲ醸スヤウナ時期セアツタノデアリマス、隨ヒマシテ満洲國ノ健全ナル發達ノ點カラ申シマシテモ、亦極東ノ平和ノ見地カラ申シマシテモ、此鐵道ヲ何トカ根本的ニ解決スルノ必要ヲ認メマシテ、日本ノ國內ニ於キマシテモ、此鐵道ノ處分方に付テ色々盡力シタ人モアツタノデアリマスガ、私ハ當時露西亞ニ在勤致シテ居リマシタ際、ヤハリ同ジ必要ヲ感ジマシテ、屢々先方ニ此問題ノ根本的解決ノ必要ヲ説イテ居ツタノデアリマスガ、其後昭和八年ノ五月ニ相成リマシテ、「ソ」聯邦政府ノ方ヨリ正式ニ、此鐵道ヲ日本國又ハ満洲國ニ譲渡スルコトノ提議ヲ致シテ參ツタノデアリマス、帝國政府ト致シマシテハ、此點ニ關シテ慎重審議ヲ致シマシテ、又満洲國政府トノ間ニモ十分打合セラ致シマシタ結果、此鐵道ハ直接利害關係ヲ有ツテ居ル満洲國ニ於テ買収スルコトヲ適當ト認メマシテ、其意味ノコトヲ「ソ」聯邦政府ニ申込ンダノデアリマスガ、先方モ直チニ之ニ應諾致シマシテ、引續キ今日ニ至ルマデ交渉ヲ致シテ居ツタノデアリマス、此今回ノ決定事項ニ關シマシテハ、大體新聞ニ發表致シテ居ルコトデアリマスガ、其交渉ノ要點ヲ茲ニ御参考マデニ申上ゲタイト思フノデアリマス

其他財產ニ對スル一切ノ權利ヲ、鐵道及附屬事業
滿洲國ニ讓渡スルコトニナツテ居ルノデア
リマス、今茲ニ其主ナル物權ヲ申上ガマス
ト、第一、此鐵道ノ本線デアリマシテ、此長
サハ千七百杆アルノデアリマス、丁度仙臺
カラ鹿兒島ニ至ル位ノ距離デアルト思フノ
デアリマス、尙ホ其他ニ同ジク千五百杆ノ
側線ノ部分モアルノデアリマス、之ニ附屬
致シマスル機關車、貨車、客車等ノ運轉材
料ハ勿論、鐵道附屬ノ各種ノ建築物ガアル
ノデアリマス、其他ニ二千五百杆ニ達スル
電信線竝ニ電話及給水設備、及此鐵道ニ附
屬致シマスル種々ノ工場、發電所ノ如キモ
ノガアルノデゴザイマス、又全ク此鐵道ニ
ハ關係ノナイ森林ト云フモノガ十八万六千
町歩アルノデアリマス、又炭坑ガ一ヶ附屬
シテ居リマシテ、是ハ札來諸爾、滿洲里方
面ニアルノデアリマスガ、其埋藏量ハ三億
噸ト號シテ居ラレルノデアリマス、又其他
ニ支那方面ニアリマスル鐵道附屬ノモノモ
引繼ラ致スコトニナツテ居ルノデアリマス、
實ハ從來此鐵道ト露西亞側ノ鐵道トノ間
ニ、色々機關車、客車等ヲ互ニ流用致シテ
居ツタノデアリマシテ、其點ニ付テ各種ノ問
題モ起ツタノデアリマスガ、今度ハソレヲ一
括致シマシテ、現在ノ有ツテ居ル部分ヲ以テ
自分ノ権利ヲ満足シテ、將來ハ他方ニ對シ
テ何等要求ヲセナイコトニシテ、取極メヲ
致シタノデアリマス、此鐵道ノ讓渡代價
格ニ付キマシテハ、當初露西亞側ニ於キマ
シテハ、一億五千万金留
マスレバ六億二千五百万圓ヲ提議致シタノ
デアリマス、之ニ對シマシテ滿洲國ハ五千
萬圓ヲ提議シタノデアリマス、斯ル値開キ

ノ非常ニ大ナルモノガアリマシタノデアリマスガ、幸ニ露西亞ノ方ニ於キマシテモ非常ナ讓歩的態度ヲ執リ、又滿洲國ニ於キマシテモ、非常ニ奮發シテ、結局ノ所、鐵道代金ヲ一億四千万圓ト致シマシテ、其外ニ從業員ノ退職ニ對シマシテ支拂フ金トシマシテ、約三千萬圓ヲ滿洲國デ負擔スルコト、相成^タノデアリマス、又此鐵道ニ付キマシテハ、相當長間ノ經營ヲ致シテ居リマシタノデ、之ニ對シマシテ色々債權、債務ノ關係ガ附屬致シテ居ルノデアリマス、之ニ對シマシテハ先方ヨリ貸借表ヲ提出致シマシテ、其内容ヲ滿洲國ニ於テ取調べマシタ結果、債務額ガ債權ヲ超エルコトハナイ、其儘之ヲ滿洲國ニ引受ケテ差支ナイト云フコトヲ認メマシタノデ、斯様ニ決定致シタノデアリマス、勿論千九百十七年ノ露西亞革命以前ノ當時ノ東支鐵道ニ對シマスル株主、社債權者、其他ノ權利者ノ要求ニ對シマシテハ、總テ「ソ」聯邦政府ニ於テ、其責ニ任ズルコトニ相成^タニ居ルノデアリマス、此代償額ノ支拂方法ニ付キマシテハ、總チ是ハ其代金ノ三分ノ二ハ商品ヲ以テ充テ、後ノ三分ノ一ヲ金デ支拂フ、其雙方共三年間に支拂フコトニ相成^タニ居リマスガ、此現金ノ中ノ更ニ半分ハ、調印ト同時ニ交付スルコトニ取決メテ居リマシテ、是ハ昨日既ニ其手續ヲ了シタノデアリマス、現金支拂其他商品支拂ノ實施ノ方法ニ付キマシテハ、現金支拂ノ部分ニ對シマシテハ、滿洲國ノ方ヨリ國庫證券ヲ「ソ」聯邦ニ渡シマシテ、期限ノ到來ノ時ニ、ソレヲ日本ノ興業銀行ト引換ヲスルコトニ相成^タニ居ルノデアリマス、品物ノ代金ノ支拂ニ付キマシテハ、

「ソヴィエト」聯邦ノ通商代表ニ於キマシテ、滿洲商人又ハ日本商人ノ賣買契約ヲ致シマシタ時ニ、其契約ヲ滿洲國ヨリ日本ニ派遣致シマス財務官ニ於キマシテ調査致ジマシテ、適當ト認メマス時ニ、其代金ヲ小切手ヲ以テ直接日本側、或ハ滿洲國側ノ商人ニ支拂フコトニ依リマシテ、露西亞側ニ對スル義務履行ヲ果スコトニ相成ツテ居ルノデアリマス

「ソヴィエト」聯邦ニ於キマシテハ、斯ル値段ヲ以テ此鐵道ヲ讓渡シタコトデアルカラ、將來其金ハ完全ニ受取りタイ、隨テソレニ對シテ日本政府ノ保障ヲ求メタノデアリマス、之ニ對シマシテ日本側ト致シマシテハ、勿論滿洲國トノ緊密ナル關係ニモ鑑ミマシテ、此條約ガ將來完全ニ履行サレルコトヲ希望致スノデアリマスカラ、其支拂ノ方法ニ付キマシテハ、後ニ述ベマス所ノ方法ヲ立テマシテ、滿洲國ヲシテ完全ニ其義務ノ履行ヲセシムルヤウナコトニ致シマシテ、決シテ此支拂ニ付テ露西亞側ニ損失ヲ及ボスヤウナコトハナイト云フコトノ保障ヲ致シタノデアリマス、尙ホ同時ニ滿洲國ト日本トノ間ニ、滿洲國ニ於テハ日本ノ此保障ニ對シ感謝ノ意ヲ表スルト同時ニ、決シテ此支拂ニ付テ日本側ニ面倒ヲ掛ケルヤウナコトハナイト云フコトヲ、互ニ取極メタノデアリマス、御承知ノ通り滿洲國ハ建國忽々財政ノ事情ニ鑑ミマシテ、其資金ハ總テ日本ノ内地ニ於テ之ヲ調達スルコトニ致シテ、其調達ノ方法ニ付キマシテモ、政府ト致シマシテハ十分ノ助力量致シマシテ、又一方日本ノ銀行團ニ於キマシテモ、滿洲國援助ノ政府ノ方針ト相俟チマンテ、此公債ノ概要ニ對シマシテハ、滿洲國ニ取シテ

出來ルダケ有利ナ條件ヲ與ヘルコトニ相成ツタノデアリマス、其銀行團ハ興行銀行外

十二ノ銀行ト、四ツノ信託會社ニ依テ組織

サレテ居ルノデアリマシテ、是等ノ銀行團

ハ一億八千万圓ニ達スル公債ノ審募ヲ承諾

致シタノデアリマス、又公債募集ノ際ニ、

市場ノ狀況ニ依リマシテ、満洲國ニ對シテ

不利益ナ事態ノアリマス場合ニハ、特ニ五

千万圓ノ範圍内ヲ以テ前貸金ヲスルト云

フ、便利ナ方法モ立テ、吳鉄ノデアリマ

ス、斯ル資金ノ調達ノ方法モ立ツテ居リマス

ノデ、此支拂ニ付テハ私ハ何等將來面倒ノ

起ルコトハナイト信ジテ居ルノデアリマス、

又是等ノ義務ノ履行ガ完全ニ行ヘレテ行ク

ト云フコトガ、延テハ日滿「ソ」三國ノ間ノ、

良好ナル關係ヲ維持スル上ニ結構ナコトデ

アルト思フノデアリマス、義ニ申述ベマシ

タ通りニ、約一億圓ニ達スル商品ヲ日本及

満洲國ニ於キマシテ買上ガルコトニ相成ツ

テ居リマスノデ、其取引ヲ出來ルダケ圓滿

致シタノデアリマス、此日滿「ソ」三國間ニ

一ノ議定書ヲ協定致シマシ

テ、其取引ノ圓滿ヲ期スルコトニ致シタノ

デアリマス、併シ或ル場合ニ、値段ノ問題

ニ於テ、或ハ契約ノ履行ニ於テ、面倒ガ起ル

ヤウナ場合モアルカモ知レマセヌノデ、關係

國ノ間ニ委員ヲ出シマシテ、調停委員會ヲ

設ケルコトニ致シタノデアリマス、此調停委員

會ニ依ツテ、萬一尙且ツ紛議ガ解決致シマセ

ヌ場合ニハ、最後のニハ外交手段ニ依ツテ之ヲ

決定スルコト、致シタ次第デアリマス、其他

退職金ニ付キマシテハ、實ニ六千人ノ從

業員ガ此鐵道カラ離レマシテ、本國ニ引揚

ゲルコトニ相成リマスルノデ、是等ニ對シ

マシテハ、從來東支鐵道ニ於ケル退職金ノ

規則ニ依ツテ、出來ルダケ寛大ナル方法ニ

依ツテ、退職金ヲ供給スルコトニ取極メタノ

デアリマス、尙ホ將來此鐵道ト露西亞側ノ鐵道トノ連絡ノ爲メ、或ハ滿洲ノ電信線ト

露西亞側ノ電信線トノ連絡等ニ付テモ、協約

ヲ致スコトニ相成ツテ居ルノデアリマス

斯ル内容ノ協定ガ、昨日ヲ以テ成立ヲ致

シマシテ、是マデ露國ノ鐵道デアリマシタ

モノガ、完全ニ昨日ヲ以テ滿洲國ノ國有鐵

道ト相成リマシタ（拍手）既ニ昨日ヲ以テ各

地ニ於テ圓滿ニ其引繼ラ了シタノデアリマ

ス（拍手）尙ホ此鐵道ノ將來ノ經營方ニ付キ

マシテハ、是マデ満洲鐵ガ滿洲ニ於ケル鐵道

經營ニ對シマシテ、十分ナル經驗ヲ有ツテ居

リマスノミナラズ、既ニ滿洲國ノ鐵道デアッ

タモノ、委任經營モ受ケテ居リマスノデ、此

北鐵モ滿鐵ヲシテ一括委任經營ヲ致サセルコ

トニナリマシテ、此義約モ多分昨日ヲ以テ終

了致シタコトデアルト思フノデアリマス（拍

手）隨ヒマシテ滿洲ニ於ケル總テノ鐵道ガ、

一元的經營ノ下ニ立ツコトニ相成リマシタ

ノデ（拍手）將來ニガ交通ノ便ヲ圖ルノハ勿

論、各種ノ產業ノ發展ニ資スルコト、大ナ

ルモノガアルデアラウト思フノデアリマス

（拍手）此鐵道ハ斯ル事情ニ依リマシテ、滿

洲國ニ於キマシテ買上ガルコトニ相成ツ

テ居リマスノデ、其取引ヲ出來ルダケ圓滿

アルト思フノデアリマス、義ニ申述ベマシ

タ通りニ、約一億圓ニ達スル商品ヲ日本及

満洲國ニ於キマシテ買上ガルコトニ相成ツ

テ居リマスノデ、其取引ヲ出來ルダケ圓滿

アルト思フノデアリマス、此日滿「ソ」三國間ニ

一ノ議定書ヲ協定致シマシ

テ、其取引ノ圓滿ヲ期スルコトニ致シタノ

デアリマス、併シ或ル場合ニ、値段ノ問題

ニ於テ、或ハ契約ノ履行ニ於テ、面倒ガ起ル

ヤウナ場合モアルカモ知レマセヌノデ、關係

國ノ間ニ委員ヲ出シマシテ、調停委員會ヲ

設ケルコトニ致シタノデアリマス、此調停委員

會ニ依ツテ、萬一尙且ツ紛議ガ解決致シマセ

ヌ場合ニハ、最後のニハ外交手段ニ依ツテ之ヲ

決定スルコト、致シタ次第デアリマス、其他

退職金ニ付キマシテハ、實ニ六千人ノ從

業員ガ此鐵道カラ離レマシテ、本國ニ引揚

ゲルコトニ相成リマスルノデ、是等ニ對シ

マシテハ、從來東支鐵道ニ於ケル退職金ノ

規則ニ依ツテ、出來ルダケ寛大ナル方法ニ

依ツテ、退職金ヲ供給スルコトニ取極メタノ

デアリマス、尙ホ將來此鐵道ト露西亞側ノ鐵道トノ連絡ノ爲メ、或ハ滿洲ノ電信線ト

ノ御努力御援助ヲ御願致シタイト思フ次第

デアリマス（拍手）

○議長（濱田國松君） 只今ノ外務大臣ノ報

告ニ對シ質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シ

マス——木檜三四郎君

（木檜三四郎君登壇）

○木檜三四郎君 極く簡單ニ申上げマス、

私ハ只今廣田外相ノ報告ヲ耳ニ致シマシテ、

淘ニ欣快ニ堪ヘヌノデアリマス（拍手）ソコ

デ廣田外相ノ平和外交ノ經綸ヲ伺ハントシ

テ此處ニ立ツタ譯デアリマス、私ガ申ス迄モ

ナク滿「ソ」兩國ノ北滿鐵道讓渡ノ交渉ハ、

帝國政府ノ仲介ニ依リマシテ、圓滿ナル結

果ニ到達シ、淘ニ私共トシテハ慶賀ニ堪ヘ

ザル次第デアリマス（拍手）私共ハ滿「ソ」兩

國ガ、能ク大局的見地ニ立チマシテ互讓安

協、此結果ヲ收メラレタコトハ、淘ニ其達識

ニ付テ敬意ヲ表スルト共ニ、我ガ外交當局

ガ、終始其間ニ斡旋ノ勞ヲ執テ、此成功ヲ

贏チ得タコトニ厚ク感謝ノ意ヲ表スル者デ

アリマシテ、之ヲ今滿洲國ガ讓渡ヲ受ケテ、

完全ニ其支配ノ下ニ置キマスルコトハ、満

洲國ノ發展ト交通機能完備ノ上ニ、甚大ナ

ル效果ヲ齎スコト、シテ私共ハ喜ブ者デア

リマシテ、之ヲ今滿洲國ガ讓渡ヲ受ケテ、

完全ニ其支配ノ下ニ置キマスルコトハ、満

〔質問ニナツテ居ナイヂヤナイカ〕其他

發言スル者アリ

○議長（濱田國松君） 靜肅ニ……

○木檜三四郎君（續） 兔角不安ト澁滯ヲ懸

念サレテ居リマシタガ、此難關ノアツクニ拘ラ

ズ、最後的ニ談笑ノ間ニ成立致シタコトハ、

私ノ満足ニ堪ヘザル所デアリマス（拍手）

此事ハ今後ニ於ケル日滿「ソ」三國間ノ親善

増進ニ付テモ、其效果ノ甚大ナルベキコト

ヲ信ズルト共ニ、東洋平和ノ爲ニ慶祝ニ堪

ヘヌノデアリマス、日「ソ」ノ間ニ満「ソ」ノ間

及日支間ニハ、今後ニ於テ解決ヲ要スベキ

等ノ諸問題ガアルノデアリマス、冀クハ是

解决シタルト同様ニ、和衷協同ノ精神ニ依

リ、益々東洋平和ノ増進ニ努メラレンコト

ヲ私共ハ望ムノデアリマス、終リニ臨ミマ

シテ、私共ハ今北鐵交渉ノ局ニ當レル諸君

會ニ於テ、經營ノ一端ヲ披瀝セラレンコト

ヲ私共ハ望ムノデアリマス、終リニ臨ミマ

シテ、私共ハ慶祝ノ意ヲ表スル者デアリマス

（拍手）是ハ是ニテ散會セラレントラ

○議長（濱田國松君） 青木君ノ動議ニ御異

表スル者デアリマス（拍手）

○青木雷三郎君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本

日ハ是ニテ散會セラレントラ

○議長（濱田國松君） 青木君ノ動議ニ御異

表スル者デアリマスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（濱田國松君） 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、明二十五

日ハ會期終了日デアリマスカラ、先例ニ依

リ午前十時ヨリ本會議ヲ開キマス、議事日

程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニ

テ散會致シマス

午後五時四十分散會